

福島・南相馬フィールドスタディ

1. 福島の現状・可能性を体感、地元リーダーと対話(インプット)

本プログラムは、大震災・津波と原子力事故により社会課題を20年先取りして課題先進地域となった福島の非日常の現場を体感し、その非日常から新しい地域の価値を創生しようとしている地元のリーダーたちと対話を重ねます。福島に向き合うことは日本社会の未来に向き合うことです。

2. 以上の原体験を踏まえ、下記の本質的な問いについてワークし、発表・共有(アウトプット)

自分自身が仕事を通じて実現したい社会、その中での自分自身のありたい姿、そのための自分自身の具体的な行動(リーダーシップ)のあり方について、内省し、実行に繋げる。

研修カリキュラム(2日間の概要)・・・P1

被災地視察の行程・・・P2

講師・ファシリテーターのプロフィール・・・P3

研修カリキュラム(2日間の詳細)・・・P4

社会人研修の受け入れ実績(1泊2日)・・・P5

参考資料(日経ビジネス記事)・・・P6～9

参考資料(日本社会における南相馬の立ち位置)・・・P10

仙台駅での集合場所とバスの乗車場所・・・P11

宿泊場所・・・P12

なお、研修の対価としていただく浄財は、あすびと福島が進める福島の小学生から大学生の人材育成のために活用いたします。

研修カリキュラム(2日間の概要)

福島現状・可能性を体感、地元リーダーたちと対話(インプット)

1 地震・津波と原子力事故による福島の現状を体感

- ・大震災から8年を経ても時が止まっているかのような大熊町、双葉町の避難指示区域と福島第一原子力発電所をバスから体感
- ・浪江町請戸地区の津波被災地(大平山霊園、請戸小学校、旧墓地)を歩く
- ・2017年に避難指示が解除されたが人気のない浪江町の街中を歩いて体感
- ・1万3000人の住民が2016年から戻り始め3600人になった南相馬市小高区の街を歩いて体感

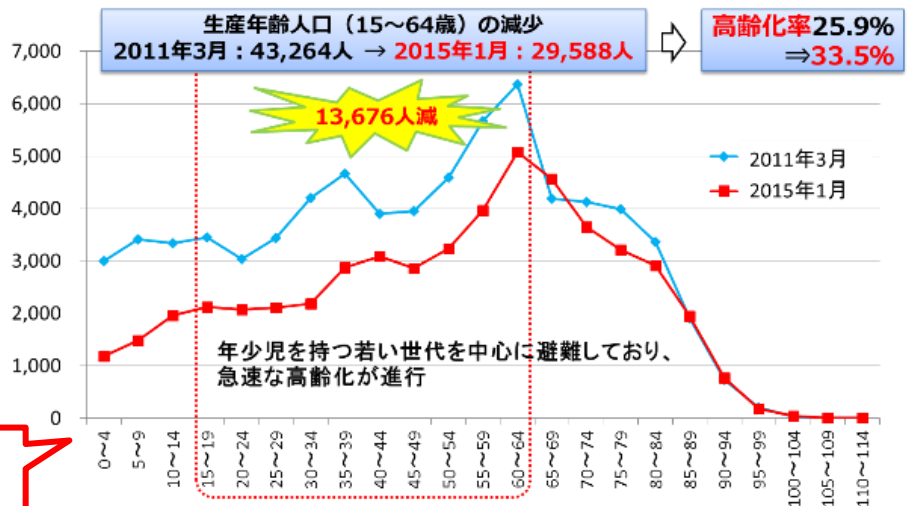
2 最先端技術が結集する福島の可能性を体感

- ・南相馬市原町区の津波被災地に建設されたメガソーラーをバスから見学
- ・国内唯一のロボット実証実験エリア「福島ロボットテストフィールド」を車窓から見学



3 地元リーダーたちと対話

- ・小高工房 広畑
- ・小高ワーカーズベース 和田
- ・あすびと福島 半谷



日本における南相馬の立ち位置
「2035年の未来を、今、生きている」

課題先進地域・福島に自分事として向き合うことは日本社会の未来に向き合うこと

下記の本質的な問いについてワークし、発表・共有(アウトプット)

自分自身が仕事を通じて実現したい社会、その中での自分自身のありたい姿、そのための自分自身の具体的な行動(リーダーシップ)のあり方について、内省し、実行に繋げる。

